

令和4年度事業計画

2020年年初より続く新型コロナウイルス感染症は、次から次への変異ウィルスの出現により、収束への道筋は未だ不透明と言わざるを得ない状況が続いています。そのような状況の中、公益法人として11年目を迎えるJAPAは、2年間のコロナ禍の中で培った活動の経験と実績を参考にしつつ、都度都度の状況に応じた予防対策を講じながら、安心かつ安全な活動が出来るように、令和4年度事業計画を作成しました。

定款に定める種類別の個々事業内容については後述しますが、昨年度再開したFTD事業については、従来の航空の裾野拡大並びに技術習熟支援に各種調査活動への協力等も加えつつ、器材改良と操作者の技量向上に努めながら、円滑な運営に必要な対応・対策を講じていきます。多人数が集まる各種セミナー、シンポジウム、講習会等のイベントについては、WEB機能使用によるリモート開催等を利用しながら、情報・知識の伝達に関する活動を展開していきます。その他、協会内のIT環境整備を引き続き積極的に進め、会員サービス向上と業務の効率化に努めます。また、高齢会員増加に伴う協会財産の将来変動を検証し、安定した協会活動を続けるために、会員制度の見直し等、必要な対策を検討していきます。

新型コロナ禍の影響による断続的な各種行動制限等によって協会活動も種々の制限を受けましたが、そうした中での経験と実績を生かし、各方面から求められる役割と責任をしっかりと踏まえた上で、公益法人としての社会的使命を果たすべく、充実した広報体制を整えながら、会員のボランティア活動と法人会員による協力を支えとして以下の事業を遂行していきます。

1. 航空の安全文化の普及と諸般の調査研究事業

新型コロナウイルス感染症に対する十分な予防対策を講じた上で、国や関係諸機関・関係諸団体との連携を図りつつ、「Fly with us～空の仕事ワークショップ～」、「スカイスクエア」、「Be a pilot（若者へパイロットの魅力を発信するプロジェクト）」などのイベントを充実させるとともに、JAPAホームページ、広報誌「パイロット」、E-journal、メールマガジン等を通じた情報発信の一層の活発化を図り、航空の安全文化の普及啓発に努めます。

飛行訓練装置（FTD）を活用し、技術習熟支援はもとより、体験搭乗、各種調査活動への協力等の機会を充実させることにより、航空への親しみを広く普及させていきます。

また、関係機関等と連携し、安全対策、運航方式対策、操縦士養成対策等々の検討に積極的に関わり、操縦士団体としての知見をもとに航空安全の確保に努め、公益法人として航空界における調整役としての活動を展開していきます。

小型航空機等の安全推進については、航空局が運営する「小型航空機等安全推進委員会」に参加するとともに、「空港技術懇談会」及び「カフェー検証委員会」等々へも参画し、運航者の視点に立った安全確保や環境改善に向けた取り組みを積極的に進めていきます。また、「VOICES FEED BACK」

の活用によるヒヤリハット事例の共有化を進めることにより、一層の航空安全確保に努めていきます。

その他、航空身体検査証明審査会に操縦士代表として参加するとともに、操縦士にとって重要な航空身体検査に関して、各種媒体を通しての情報提供を進めます。

2. 運航の安全に資する知識の向上と情報提供及び調査研究

操縦士並びに航空機運航に携わる多くの航空関係者を対象に、知識と技術の質的向上と共有を目的とし、新型コロナウイルス感染症に対する十分な予防対策を講じた上で、リモート開催等も利用しつつ、各種セミナー（TEM/CRM セミナー、SRM セミナー、小型航空機セーフティセミナー、航空医学適性セミナー等）やシンポジウム（ATS シンポジウム、気象シンポジウム等）、航空安全講習会を充実させていきます。

また、区分航空図やスタディーガイド（試験問題集）、TAKE OFF、AIM-J 等の出版物を通して、航空知識を向上させるべく取り組みを進めます。

無人航空機（ドローン）の運航については、安全性の確保と有人航空機との共存に向けた研究等の取り組みを進めていきます。

3. 本協会の目的を達成するために必要な事業

会員の福利厚生並びに法律相談の充実を図るとともに、航空界の次代を担う若者（航空大学卒業生等）や航空の発展に尽力された方々への表彰関連事業を進めます。

<事業一覧表>

	定款に定める事業	事業計画	区分
1	航空の安全文化の普及と啓発	スカイスクエア	公1
		Fly with us～空の仕事ワークショップ～	公1
		Be a pilot	
		航空安全セミナー	公2
		FTD を利用した裾野拡大	公1
		関係省庁主催委員会 委員 派遣	公1
		航空機操縦士養成連絡協議会	公1
2	安全対策 (制度と運用)	航空医学適性セミナー	公1
		学科試験問題検討会	公1
		航空安全講習会	公2
		VOICES への参画及び情報提供	公2

3	情報（知識）の 伝達と提供	小型航空機セーフティセミナー	公 2
		シンポジウム開催 「ATS」「航空気象」「フライトテスト」	公 2
		TEM/CRM セミナー、SRM セミナー	公 2
		参考文献及び教材提供 「区分航空図」「スタディーガイド」「AIM-J」 「ヘリコプター操縦教本」等	公 2
		航空情報提供 「ホームページ」「パイロット誌」「E-journal」「メールマガジン」等を用いた発信	公 1
		航空身体検査証明審査会、航空身体検査 Q&A	公 2
4	技術習熟の支援	RNAV 講演会	公 2
		FTD を使用した技術習熟の支援	公 2
5	情報収集と調査研究	航空業界における情報収集と諸研究のフィードバック。 FTD を利用した調査研究等への協力。 有人航空機と無人航空機（ドローン）との共存に向けた 調査・研究。	公 2
6	その他、本協会の 目的を達成する為に 必要な事業	福利厚生	他
		表彰関連事業	他

【参考】

公益社団法人である本協会の事業は、公益目的事業とその他の事業に分類され、更に公益目的事業は事業の性格により、2つに分類され、内閣府より認定を受けています。

航空の安全文化の普及と諸般の調査研究を対象としている事業・・・公1

運航の安全に資する知識の向上と情報提供及び調査研究を対象としている事業・・・公2

本協会の目的を達成するために必要な事業・・・他